

施策番号 5-1-2	施策名 住民自治の実現と地域の活力の維持	基本目標	住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり			
		政策名	多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり			
	主管課	魅力創造課	課長名	西田昌樹	内線	412
	施策関係課	政策推進課・総務課・都市経営課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針	対象	意図					結果		
地域の活力を維持し、住民自治を実現させ、より良い地域づくりをすすめます。	町民 町に愛着や誇りを持ち係る人	・町に愛着や誇りを持ち、地域のために活動する					まちづくりに係る人が増えることで地域の活力を維持する		
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
① 地域の活動に参加している町民の割合	住民意識調査	%	45.7	49.2	40.0	38.8	40.2	55.0	
② 芽室町が好きな町民の割合	住民意識調査	%	96.8	93.0	92.6	94.3	95.8	95.0%以上	
③ 芽室町に住み続けたいと思う町民の割合	住民意識調査	%	95.8	94.4	92.9	94.6	94.1	95.0%以上	
④									
成果指標設定の考え方	①策定時の値+10ポイントを目標に設定した。 ②策定時の値が非常に高いことから、その値を維持することを目標とした。(※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ③策定時の値が非常に高いことから、その値を維持することを目標とした。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	132,594	121,376	172,002	265,189	293,241
人工数(業務量)	1,9393	3,2380	2,8791	3,0255	3,2571

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	まちづくりに関する各種の事業(人材育成事業、シティプロモーション事業など)により、微増したと想定する。
② 第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	コロナ禍において、各種の活動が制限されたことにより、①の活動は大きく下がり、それに連動して②③の意識離れが大きく懸念されたが、回復は見えていることから、目標値には達していないものの、総合的に判断して概ね達成できたと考える。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	シティプロモーション推進事業 人材育成支援事業 町民活動支援センター運営事業 協働のまちづくり活動支援事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	町内会等活動支援事業
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	事業全体を通してコロナ禍において、町民の方との対面した協働の機会はほとんど失われ、必要最低限の活動が多く、結果として成果は目標値に達していない状況にある。 その中にありながら、町民活動を停滞することなく、各種のサポート、町民からの声の聞き取り、ファシリテーター養成事業など、町民活動支援センターで実践した成果は大きい。併せて、協働のまちづくり支援事業を活用した町民自らの活動による成果も大きい。 また、町の新たな動きを内外に効果的に実践したシティプロモーション事業は、町民の参加をはじめ、期待を高め、郷土愛意識の向上につながったと考える。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	コロナ禍において活動を停滞させない新たな手法を積極的に取り入れ、実践し、特に成果指標①は目標値との差は大きい、②③においてはほぼ達成したと見なし、総合的に前進したと判断する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 人口減少が進む中で、住民自治の重要性はますます高くなっているが、個人の意識や考え方の多様化が進む中、地域活動や集団活動を好まない人たちが増え、コロナ禍においてはますますその拍車がかかっている。</p> <p>《今後の予測》 コロナ禍をきっかけに集団活動を避け、個人活動を好む傾向が強まるのが想定されるが、住民による郷土愛を育んでいくことが、最終的には住民自治の実現と地域の活力維持につながると考えられることから、町民活動の核となる町内会活動と町・町民活動支援センターとの協働により、自治のまちづくりの基礎づくりを進めていく必要がある。併せて、住民参加のまちづくりにつながる事業に積極的に町民参加を促し、具体的な成果が出せるような仕組みづくりが必要と考える。</p>
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションの考え方を理解してもらう必要がある。 →魅力発信フォーラムなどを通しての説明や、町民参加による各種のまちづくり事業において参画者、理解者を増やしている。 ・町内会の未加入世帯対策をしてほしい。 →単位町内会、町内会連合会との情報共有、協議を進めながら、一律的ではない、単位町内会に合わせた解決策を見出すように努めている。 ・地域集会所については、地域間格差が生じないように取り進める必要がある。コミュニティ活動での使用が減免になることの積極的周知を。→地域間格差の生じないように再整備を進め、コミュニティ活動での使用料減免を周知している。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの担い手を増やすためには、人材育成は必要不可欠です。市民ファシリテーターの養成は、自治基本条例に定める住民参加のまちづくりに直接的につながることから、さらなる養成、活躍の場づくり、具体的な成果づくりに努めていく。 ・まちづくりにおける基礎的組織である町内会は加入率の低下傾向にあり、時代に則した、効果的な町内会加入手法を単位町内会、町内会連合会と共に情報共有、協議を進め、実践し、自治活動の支援に努める。 ・災害時や地域活動の場である地域集会所の再整備を計画的に進める。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	町内会の加入率は低下しているものの、まちづくりに関する各種の事業(人材育成事業、シティプロモーション事業など)の取組は進んでおり、施策全体の評価として「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した
-------------	--------------------	---

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	成果指標の結果等から「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・町民に芽室町に興味を持ってほしいし、町内会の活動を維持していくことは重要であるため、町としても力を入れていただきたい。 ・町民が幸せに感じる・生活しやすい施策を第一に考え、町民の意見を聞きながら町内会活動のバックアップをしてもらいたい。 ・地域ブランディング・まちなか再生など、まちづくりに関するワークショップが複数あったが、参加者人数が徐々に減少していたため、内容の見直しや工夫が必要であるのではないかと。 ・成果指標①に係る住民意識調査の設問について、町内会活動に限定しているように感じた。町内会だけではなく、他団体やサークルに参加している人が回答しやすいように設問を検討してはどうか。 ・全町内会の加入率は50%程度と低い状況にある(課題) →本審議会のような町内会について議論する場が必要(対策) →役場や町内の関連団体から町内会加入について啓発しあう(役割) ・引越してきた方に「町内会の良さ」を伝えられずにいる(課題) →未加入世帯向けに町内会ごとのチラシを作成してはどうか(対策) →無料で町民活動支援センターで作成できる。各町内会に周知してはどうか(役割) ・子育てで忙しい世帯や高齢者で移手段がなく、役員を担えないために脱退する人がいる(課題) →一度入ってもらうきっかけ(子ども会費の補助など)を作ったり、LINEなどSNSを活用して「移動しなくてよい」活動をしてはどうか(対策) 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した
-------------	---	---